

TSK

仙台ダルク News Letter
Drug Addiction Rehabilitation Center

2023年 12月号



編集く仙台市指定グループホーム・仙台ダルクチェルキオ作業所く仙台ダルク
〒980-0011 仙台市青葉区上杉 2-1-26 URL <http://sendai-darc.org/>
TEL 022-261-5341 FAX 022-261-5340 Mail s-darc@jasmine.ocn.ne.jp

～お世話になりました～

新年早々「25周年+1」の記念フォーラムをさせていただいた。26年経っていたが、25という節目の方がキリがよいと考えてこのようにした。7月で27年を迎えた。今年の仙台ダルクは刑務所出所者の入寮が例年より多く、出たり入ったりしながら推移してきた。この一癖も二癖もある輩にスタッフは精一杯振り回されながら奮闘している（笑）。

話は飛ぶが、師走に入り、仙台は光のページェントに染まり、賑やかなシーズンを迎えている。コロナで随分とテンポがズレたままだったが、戻ってきた。街中に外国人の観光客をたくさん目にするようになった。ここだけの話ですが今、仙台のビジネスホテルは値段が高くて大変です（笑）。本題に戻ると、11月から仙台ダルクの大規模修繕が始まった。まず、事務所やミーティング場の荷物をすべて片付けた。事務所は壁が真っ白に、床はきれいな木目調に変わった。かなり明るくなった気がする。ミーティング場は間もなく仕上がる予定だ。ホールだった3階に新しい部屋を作ることになり、急ピッチで作業が進められている。ホールを部屋にするのでコンパクトになるが、今までより多くの仲間が集える場所になる。正月10日からみんなが生活する2階の大改造に入る。荷物を片付けて1か月ほど3階で雑魚寝生活してもらうことには不自由を感じるだろうが、仕上がれば新たな生活が待っている。キッチンもリニューアルされる。ここで生活空間は一旦工事が終わるのだが、春先から水道管その他の全面工事が行われる予定だ。冬場ではパイプの水が氷ると作業ができなくなるから、春先に行われる。全面リ・スタートは新年度になると思うが、今まで以上に仲間をたくさん預かることができる場所に生まれ変わる予定だ。

私は常々思う。散々なことをし続けてきたアディクトなのに、回復の場所は仙台宮城の一等地。恵まれた環境を与えていただいたと感謝に堪えない。今年一年も、多くのみなさまの支援のおかげで年を越せることを心より感謝いたします。来年もスツタモンダはあるとは思いますが「今日一日」皆で回復と成長のプログラムを行ってまいりますので、ご支援の程を宜しく願います。皆様にとって来年も良い年となりますように。

仙台ダルク 飯室 勉

経験者はかく語りき by キム

薬物依存症のキムです。今回、代表からニュースレターの間を与えられたことでペンを取らせて頂きました。

まず私は1人では覚せい剤を止めることが出来ず、仙台ダルクに繋がり、おおよそ3ヶ月のクリーンな生活が続いています。

さて、私は覚せい剤、女性、仕事が生きがいの人間でしたが、ミーティングでは特に子供時代の過去を打ち明けていません。それは、可哀想だったと同情されることに抵抗があり、不幸であった子供時代が人に知られる事が恥ずかしかったからです。それ程私の子供時代は幸せな子供時代とはかけ離れた壮絶な人生だったからです。

その私の生い立ちですが、私は16才の8月迄両親の顔も名前も知らず生きてきました。両親の思い出は一切ありません。両親は私が産まれて交通事故で亡くなったと聞かされ、それを子供心に信じて生きてきました。その私は産まれてすぐに乳児院に引き取られ6才迄みなしごだったとおぼろげに記憶しています。

しかし、私には2つ年上の姉が居たこと、さらに実の父が在日朝鮮人であったことも知りませんでした。その姉は、父方の祖母に引き取られ、大阪で朝鮮人として生活していたようです。しかし、私が小学1年の時に栃木に戻り、それが実の姉との初めての出会いでした。姉は朝鮮人から日本人に変わり、日本の学校に変わったので、はるかに姉の方が壮絶な子供時代だったと思います。そこから姉とは栃木で一緒に暮らす事になりましたが、その場所も里親が2回変わり、養護施設など、何度も転々として落ち着いて暮らせる場所ではありませんでした。

そんな私にとって姉が支えでもあり、母親の様な存在でした。中学卒業迄、5回転校させられるなど、大変だった子供時代を今でも良く覚えています。それでも私は負けん気が強く、気の強い子供でしたから、何処の学校へ転校してもイジメられる事はありませんでした。

経験者はかく語りき by キム

それ程、子供時代から壮絶な人生を経験してきた事で根性も強くなり、泣いた記憶はありませんでした。強い気持を持たないと生きていけなかったからです。物心付く前から両親が交通事故で亡くなったことを子供心に受け入れていたので、両親が居なかった寂しさよりも、仲良くなった友達と突然何度も離れた事の方がはるかに寂しく、その時は辛くて泣きじゃくった事は今でも鮮明に覚えています。その離ればなれになった同級生に今年の正月、30年ぶりに会いに行きましたが、私の事は皆忘れる事なく覚えていてくれました。

話は戻り、その後、中学入学した1年の時、実は両親がいたことがわかりました。その時の気持は早く会いたい気持と、どうして子供の時からこんな大変な思いをさせた人だと両親に対しての憎しみへと変わり、絵に描いた様にグレ始めました。姉も里親の家を飛び出して、里親も手に負えなくなり、中学1年の秋頃、姉と共に養護施設へ送られました。その養護施設の仲間も私と似た様な環境の仲間ばかりでしたから、その仲間とのキズナは強くなり、学校では養護施設の仲間に向かってくる同級生はいない程でした。

その頃からシンナーを覚え、バイク、恐喝、他中学校へのケンカなど、さんざん悪さばかりして、学校の先生も手に負えず少年院に送られた仲間も数人居ました。私も少年院に送られるはずでしたが、環境が悪かった理由で少年院は免れた事もありました。

それでも里親での生活よりもこの生活は今思えば楽しく、常に寂しさを忘れられ、常に仲間がいた事で楽しい中学時代でした。この仲間とは今も繋がっており一生の仲間です。この養護施設を出た仲間は、真面になるか、もっと悪くなるかそれしかなかったと思います。ヤクザの道へ進む仲間も多かったと思います。

そんな中学時代でしたが、中学時代に両親が私の元へ来てくれると信じていた部分もありましたが、私に会いに来てくれる事は一度もありませんでした。

次号へつづく



☆がんばって生きてるって言われたとき涙がでてきました。それとうれしかったです。あとは薬物はあぶないって分かってるけど、話をきいてそれ以上にあぶないと知りました。薬局でふつうに手に入ってしまうのもとても怖いんです。あとは話をきいて薬つてやめるの本当にむずかしいんだと思いました。

☆飯室さんが「生きるために生まれてきた」といった時になんか言葉に表せない気持ちになって、すごくかなしいのかうれしいのか、なみだが出てきました。

☆私たちの身近な所にある薬局などで簡単に薬物が手に入ってしまうことを初めて知りました。薬剤師さんはなぜ薬物をすすめたのか、そして病院とかでだされる薬と薬物の違いは何なのか疑問に思いました。今日の話を聞いて、「薬物」以外にもスマホやエナジードリンク、パチンコなど人が依存するものは世の中に沢山あるんだなど改めて実感しました。

☆どんな人が薬物を使うんだろう？なんで始めてしまうんだろう？いつも疑問を持っていました。「自分を大切にできない人」と聞いてグッときました。中2のみんなの中で自分を大好きな人は少ないなと思いました。私自身も自分のことは好きじゃありません。それでも、生きていくことが大切だから、自分自身を大切にしていきたいと思いました。

☆薬物を使う人にも問題はあるけど、薬物を使わざるをえない環境にしてしまう人や場所にも問題があるんだと思いました。薬物をやめるの前に、始めない、始めさせないことが大切だと思いました。自分の悩みをうちあけるのが難しいという話が入ってきてやすかったです。

☆薬物などの話はニュースで見かけた事があるけれど、実際に、薬物に手をつけた事がある人に薬の話聞いてこんなに恐ろしい事なんだと思いました。そして、薬局などにある薬や、エナジードリンク、カフェインがあぶない事も知れました。薬物依存になって体が動けない人のためにリハビリする場所がある事を初めて知った。そして、リハビリの他に、心の問題の人や拒食症の人がいる事を知った。

☆色々な薬物がドラッグストアで簡単に手に入るということを初めて知った。今、このクラスにいる不登校や引きこもりの人を「楽しってる」とか「うらやましい」とか今後から思わないように心がけたい。



献金・献品を賜りました皆様方へ心より感謝申し上げます。
恐れ入りますが敬称を省略いたします(2023年10月~12月分)
※ニューズレター発送簡略化の為、郵便振替用紙は全員に同封いたします。
尚、匿名希望の方は振込用紙にお書き添えください。



鈴木静子 淀川喜正 鈴木良巳
青葉地区更生サポートセンター

その他匿名の皆様方

編集後記

思考がとっ散らかっていたのが、しだいに整理されてきたようで、気がつけばすっからかん。最近は何を書けばよいか困る。でもこれは幸せと捉えている。なにかに執着するわけでも、情緒が乱れるわけでもない。空の状態がしばしば不安になってなにかで埋め合わせようとするけれども、それも経てしまったようだ。空は空のままに馴れた。それにどうせ問題は起こる。

今年は嫌なのから逃げるのが上手くなったと思う。「嫌な物事には意味があって、それに向き合い、克服することによって、成長する。」背後にあるそんなドグマを見切った。おかげで逃げることへの後ろめたさが減衰した。有限な資源を嫌なのにあてがう無駄。本来、自分の幸福にあてがうことが出来たかもしれないのに。嫌なのは何にでも向き合うことなど現実的ではない。対処方法はいくつもあるはずだ。こうして狡くなった。それでいい。

しかし、嫌と好きとの認識は等しくないようで、私の場合は嫌の方がはっきりと認識できる。自分好みというのは案外わからない。それでも空を味わうことで少しははわかってきたような気がする。となれば、一層嫌なのから離れやすくなる。相乗効果が生じているようだ。いいねと感じるには余裕が必要らしい。

ガチガチに固まった体をできるかぎり柔らかくしたい。最近感じている好みだ。方法はストレッチをはじめとしてたくさんあるのだろう。自分に合った方法を探っていくのもまた面白い。

お茶をゆっくりと味わうのが好き。ぼーっとできる貴重な時間だ。今まで気にもとめなかった微妙な香りと味の違いに関心を向けるのが心地よい。何も分かっていなくてもいい。気取ることだって大切だ。

古い器に囲まれるのが幸せ。真贋を見る目はないけれども、自分が気に入った古い器を手に入れて賞翫するときの満足感。お茶のときに用いると贅沢なひとときになる。名も無い陶工が作り、時代を経て縁あって手元にあると思うと尊い。人格それ自体は生臭くて苦手だが、にじみ出る痕跡のようなものはたまらなく愛おしい。

嫌なの挙げるとキリがないので逃げることとして、年末年始は幸ありますように。みなさん良いお年をお過ごしくださいませ。



仙台ダルクの吊るし柿

編集者 仙台ダルク

〒980-0011 仙台市青葉区上杉 2-1-26

TEL 022-261-5341 FAX 022-261-5340

URL <http://sendai-darc.org/>

Mail s-darc@jasmine.ocn.ne.jp

発行所 東北障害者団体定期刊行物協会

〒980-0874 仙台市青葉区角五郎 1-12-6

頒価 100円